

今治市大三島美術館 館蔵品展「日本画で巡る日本の名所・風景」
令和2年3月11日(水)～令和2年5月31日(日)

【小展示室】

	作者名	作品名	分類・形状	寸法 (cm)	制作年
1	麻田 鷹司	下田街道	紙本彩色	80.3 x 60.5	1958
2	大崎 多実穂	灯台	紙本彩色	99 x 145	1989
3	林 孝二	灯台のある館	紙本彩色	145.5 x 97	1994
4	高橋 秀年	法隆	紙本彩色	100 x 65.4	1985
5	伊藤 彰耳	新緑産山新牧	紙本彩色	60.6 x 90.9	1991
6	榊田 隆一	紅富士	紙本彩色	52.5 x 45	
7	出口 直介	春の日	紙本彩色	89.4 x 130.3	1998
8	中路 融人	桜と島	紙本彩色	81 x 60	1983

【大展示室】

9	黒光 茂樹	花	紙本彩色	211.3 x 173	1972
10	石村 雅幸	明日香	紙本彩色	104.5 x 104.5	1995
11	木下 育應	嵐山卯月	紙本彩色	112.3 x 145.5	1984
12	手塚 雄二	華巖	紙本彩色	65 x 90.7	1985
13	林 潤一	白韻懸涼	紙本彩色	168 x 248	1990
14	谷 善徳	浄	紙本彩色	124 x 80	2001
15	四田 淳三	妙高	紙本彩色	80 x 100	1985
16	加山 又造	火の島	絹本彩色	165.8 x 364.5	1961
17	小池 一範	海辺にくらす	麻布彩色	101.3 x 145	1989
18	星野 友利	風がわたる	紙本彩色	220 x 175	1995
19	中島 千波	精樹大楠	紙本彩色	171 x 352.6	2000
20	渡辺 信喜	オリーブ	紙本彩色	173 x 215	1985
21	森山 知己	瀬戸内の春	絹本彩色	97 x 145.5	1992
22	井手 康人	鳥取砂丘	紙本彩色	73 x 168	1986

【展示ケース】

1	石村 雅幸	大谷寺磨崖仏	素描	44 x 44	
2	石村 雅幸	土柱春景	素描	28.8 x 38.8	1993
3	石村 雅幸	金毘羅宮高灯籠	素描	39.5 x 28.4	1993
4	平福 百穂	仙巖峠	素描	14.4 x 20	
5	折井 宏光	よろい	素描	39 x 30	1979
6	坂田 虎一	普賢院鐘楼	素描	56 x 38	
7	北岡 文雄	四国の山(瓶ヶ森)	木版画	42 x 56.5	
8	中村 直人	白根山遠望	素描	35.5 x 43.5	1967
9	南條 正一	秩父	素描	21.5 x 26	

【田淵俊夫記念展示室】

	作者名	作品名	分類・形状	寸法(cm)	制作年
1	田淵 俊夫	大和秋色 月ヶ瀬	版画	31.5 x 29	
2	田淵 俊夫	大和秋色 大柳生一 I	版画	31.5 x 29	
3	田淵 俊夫	大和秋色 大柳生一 II	版画	31.5 x 29	
4	田淵 俊夫	四季六題 やまざくら	版画	32 x 41	
5	田淵 俊夫	四季六題 やまふじ	版画	32 x 41	
6	田淵 俊夫	四季六題 あさがお	版画	32 x 41	
7	田淵 俊夫	四季六題 ほおづき	版画	32 x 41	
8	田淵 俊夫	四季六題 すすき	版画	32 x 41	
9	田淵 俊夫	四季六題 たけ	版画	32 x 41	
10	田淵 俊夫	京洛心象 白暮	下絵	91 x 116.5	
11	田淵 俊夫	京洛心象 冬詩	下絵	91 x 116.5	
12	田淵 俊夫	四季一飛鳥川秋色	版画	53 x 65	
13	田淵 俊夫	旅の窓から「緑雨」	版画	42 x 33.5	
14	田淵 俊夫	旅の窓から「萌える」	版画	42 x 33.5	
15	田淵 俊夫	旅の窓から「運河」	版画	42 x 33.5	
16	田淵 俊夫	旅の窓から「黎明」	版画	42 x 33.5	
17	田淵 俊夫	旅の窓から「橋」	版画	33.5 x 42	
18	田淵 俊夫	旅の窓から「夕照」	版画		
19	田淵 俊夫	旅の窓から「黄山」	版画		
20	田淵 俊夫	寒風	下絵	32.7 x 41.8	1979
21	田淵 俊夫	春萌ゆ	下絵	22.4 x 45.9	1987
22	田淵 俊夫	兆	下絵	93 x 68	1991
23	田淵 俊夫	割りしのぶ	版画	44.5 x 33	

田淵俊夫氏略歴：

1941年(昭和16)東京都江戸川区に生まれる。1967年東京芸術大学大学院修了。
 1968年第53回院展に「ヨルバの神々」が初入選、71年春の院展で「秋宴」が奨励賞(以後6回受賞)、81年には外務大臣賞を受賞。また1971年には第15回シェル美術賞展で佳作賞受賞、78年「安曇野」が第1回東京セントラル美術館日本画大賞展優秀賞、79年「輪中の村」が第5回山種美術館賞展 優秀賞を得る。1982年第1回前田青邨賞、同年第67回院展で「流転」が日本美術院賞・大観賞、83・84年と連続奨励賞、85年には第70回院展で「叢叢讃歌」が2度目の日本美術院賞・大観賞を受賞し、日本美術院同人に推挙。1988年第73回院展では文部大臣賞、94年には「大地 I・II」で第79回院展内閣総理大臣賞を受ける。学生時代は心象風景を描いていたが、卒業後アフリカへ旅し灼熱の太陽のもとで逞しく生きる植物に感動したのがきっかけで雑草を描き始める。その後、大和などの風景を主題とし、80年代に入って再び草花を題材とすることが多くなる。近年は奈良の心象風景、旅窓から見た生活情景のほか、インドや中国、ベトナムなどを題材としている。精緻な線描と緑や青など淡い色彩を特色とする作品は叙情味を帯びて清く澄み、古典的な優美さを醸している。

1996年大三島美術館に田淵俊夫記念展示室がオープン。以後同館で個展開催。現在、日本美術院理事長。2019年文化功労者に選ばれる。

【応接室】

1	村上 佳苗	いつともしれんいつかまで	油彩	116.7 x 91	2012
2	村上 佳苗	大三島	油彩	45 x 35	2017
3	村上 佳苗	しまなみ	油彩	72 x 61	
4	村上 佳苗	みかん山	油彩	145.5 x 97	2010